
ヘンテコな食虫植物たち！

須崎杏子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヘンテコな食虫植物たち！

【Nコード】

N4622D

【作者名】

須崎杏子

【あらすじ】

ある、地球のどこかにグリーンランドというところがありました。世界中の植物達が集まるところ。ヘンテコな食虫植物もいます。そして、植物達と会話できるたった一人の男性は、相談室を開きました。そこからどんな悩みがくるのでしょうか……。

第一回おたより 消化不良のハエトリソウ

ここは植物達が集まる楽園。グリーンランドという単純な名前の楽園です。

そこにいる植物達のへんてこな悩みを解決するところがあります。おや。また、届きましたね。では、よんでいきましょう。

消化不良です。

わしはまだまだ生きたいが、消化不良で安心してハエを食べられぬわい。

こういふばあいはどうすればいいんじゃないの？

名前：ハエ・取り、食らう自由気ままな老人

ちょっと、生活ぶりを見せてもらいましょう。

2

「お、とまったな！ こうなればわしの勝ちは確定したものじゃ！」
ハエトリソウはすぐ、葉を閉じる。

（しまった。罠か！）

ハエは逃げようとするが、ものすごく早く閉じるので逃げられない。

パックン。

「ゴフツ！ やはり年じゃのう。うおっほ！」

このハエトリソウは長年、かれずに生き抜いた老化した食虫植物らしいです。

「バーカ」

ハエはそういふととび立ち、逃げていったのです。

「消化不良かう？」

もうほとんど折れかけている葉をみていったのです。

「がふっ」

せきをする^と折れかかっていた葉とともにねばあゝとした液体を吐き出しました。

「ばかじやのうゝ」

よこから声^がする。同年のはえとり ソウだった。名前^が普通ではないのは、やはり名前も必要だからだ。

「なんじやとおゝ？」

売られた喧嘩は買うべし。お互いに噛み付きあう。

「ちよつと、ちよつと！」

「ごめんじや」

左の方から声^がした。それは自分より遅くでてきたHAE^{ハエト}TOR ISO^{リソウ}Uだった。

「ハエ！ 早くきてくれ！」

「いんや、わしの方がさきじや」

（誰^がくるかあゝ！）

そういつて、ハエは逃げる。

「ななな、なんてことをするのじやあゝ！」

「こつちのせりふじや、このたわけ！」

かみ付き合うたびに、横から唾液（溶解液）があふれでる。したにポタポタ落ちるとシューーと音が聞こえるがなんの音かはわからない。

「あたりがきたのじや！」

そういつて葉を閉じた。

パッくん

「ごふっごふ！ ひやが、はへふと、いんでいまう！」

ぶじ、食べ終えたら、またせきをする。そしておえつと嘔吐する。

「うぎゅー！」

ゴロゴロゴロとお腹^がなる。

「ふんぎゃ！」

「暴飲暴食のせいじゃな、ふおふおふおふおふお！」
お腹いたい、腹痛が起きたと訴えかける目。

「ばーか」

「ぐえっ!？」

老人にはさぞ似合う声。

「老人はここまでかのう……。暴飲暴食したせいかのう」
って本当にしていたんかいな!!

「まあ、大丈夫かい？」

「ばばあ、視聴者からいいハエトリソウだと思われたからそんな
ふうにいったんじゃろ？」

「きい！ こんのたわけじじい！ なぜわしの思考がわかった!？」
「いやいやと長年の付き合いをしていたからじゃのう。まるわかり
じゃー!!」

こうして消化不良のハエトリソウはいっそう平和にぐらしまし
たと、さ。

「ぜったい平和じゃないと思うぞ」

「かわいそうだな」

「まあ、あいつは鈍感だからな」

「だれですか？ 私のうわさをしているのは……？」

「わしは、平和ではないのじゃよ!!」

第二回おたより 飽きたモウセンゴケ

……前回のお便りでは、ハエトリソウが可哀想でしたね。ツブプ。
えゝ、次はモウセンゴケからのおたよりです。

題名：ハエはあきた…

私は最近ハエは飽き飽きしました。けど、私がいるところは、臭いのでハエがたくさん飛んでいます。そいつらを捕食していますが、うわさに聞くモンシロチョウとかを食べてみたいな。

名前：毛の先つちよは溶解液のかたまり

どうにもこうにもなれませんね。とりあえず、生活ぶりをみよう。

「あゝもう！ ハエばかりいて飽き飽きしてきましたね！！」

モウセンゴケですか……。なにかがまざってます

「ちよ、なに、その言い方（笑ってる）」

なんかまともですね……

「べつにいーじゃない？ ところで、ハエ飽きたね！」

（え！？俺のこと飽きたの！？）

「モンシロチョウとか食べてみたいなゝ」

どこからその情報仕入れたのですか……？

「ようーし！ それなら俺を食べてみよ！」

「だめです！ そんなのとけちゃうじゃない！！」

「俺の心配より自分の心配！？ てか俺も解けちゃうんじゃないか
！？」

テンション高い種ですね、モンセンゴケは。

「まあ、ラフレシアとかゆー花のせいでハエしかとんでこないしね」
「ねえ、そういえばアンタはモンシロチョウ食べたことがありますか？」

「H A H A H A H A、俺は食べたことがある」
「貴様ー!!」

……なんかグロい音が聞こえるのは気のせいですね

「……あ！ けっこううまい！」

横にいたモウセンゴケがいなくなってますよ……。

「お前モンシロチョウ食べたことがあるんですね。どんな味がしました？ ってどこにいったの」

自分で食べたのにわからないんですか？

「歩けたらいいのになあ。人間に植えられたらいいのに」

「h u h a h a h a h a！ そうだな！ 無理な話だけだな！」

「お、お前生き返ったのか!？」

「俺は不死身いー!」

すごい技……

「それ以上笑うのなら、もう一度死にたいですか？」

「その敬語で死ねと言われたら怖い！」

「私にかなうものはなし！」

「ぷっ」

ぷっ

「それ以上笑うな！」

「バカのお前に笑っちゃ悪いのか？」

「バカはお前です」

「やいバーカバーカ」

「やいバーカアホボケカs、いやチリ！」

「ええ!? 俺ってゴミ以下の存在!？」

……低レベルな喧嘩ですね……。

「でもな、『ちりもつもれば山になる』ってしってるか!？」

「ちりもつもれば山になるってことは、動けない役立たずの奴が山となった時の言葉なんです!！」

「ええ!?!? そうだったの!?!？」

「ええ!?!? 信じた!?!？」

「ああ! そうなんですって!！」

「ええ!?!? そっちも信じてる!?!！」

「だいたいハエって飽き飽きしててこまっちゃうんです!！」

「まだその話題引きずってた!！」

「そついいながら食べてるのはだれ?！」

「腹も減っては戦ができぬっていう言葉知ってるですよね!！」

「あ、そっか」

「納得しないでください…」

「ところでハエ飽きたって手紙送りました?！」

「なんでお前の事情を書かなくちゃいけないんだよ（小さい声で）
ひゅ……じゃなくて、植物にかかせたんですか!?!？」

「えい!！」

「ヘア！（エコー）」

ウル マン!?!？」

「ちがう! こんなかんじです! ヘア!！」

馬鹿!?!？」

「バカかてめ!！」

「バカじゃない、ってかなにしてたんだよ」

「ぐー」

「いびき!?!？」

「ありや? なんだこいつ」

「新顔ですかね?！」

「お前ら……。バカじゃなかったらなんなんだ……」
まともな意見です。

「「なんだと!?!？」」

……。袋叩きにされている……。

「痛い……。ていうか自分を見直しなさい」

……もつという言葉はありません……。

「自分？」

「見直せ？」

手紙を贈ってきたモウセンゴケのほうでは

「なにするんですか？」

「こつちが聞きたいぐらいだよ！」

「あなたが先に殴ったんだろ！？」

「貴様の悪口が悪い」

「なんだとー！？」

ボカスカボカスカ

「ぜえ、ぜえ、ぜえ」

「なにするんですか。私はけんかは強いんだよ」

「まじで強い……。生命力が……」

「ゴキブリみたいに言うなー！！」

「……」

そしてもうひとつのモウセンゴケは

「」

「うぜえんだよ！ その歌歌うなってつつてんだろー！！」

「」

「……いい加減にしろよ」

「」

ボカン！

『痛いよう……』

『ざまあみる』

（うわぁ、あのかのろの俺ってさいてー）

「そしてうるさい。馬鹿どもが」

「お前の人生見直せよ」

「そうだよ？ 人生見直せよ」

「俺のセリフパクんな！」

「へっへーい」

「ぐすん」

「ないたー！？」

「お腹すいた。ハエ飽きたけど」

「今頃それを思い出した！？」

「あーもう寝よう」

「寝るの！？」

「ハエですがー、先ほどクモがいましたよ」

「よし、とってこい！！」

「バーカ」

「ないてたのに立ち直り早！？」

「お腹すいたね……」

「あっ！ 電気がなくなー……。」

ブチッ

「あー、もう切れちゃいましたか。これを贈ってきたモウセンゴケにはモンシロチョウを百匹分送りましょう。それでは」

店内にはいり、ほかのお手紙をみる。実はテレビ中継のためにこんなことをしているのだとか。

最終回 夢遊病のウツボカズラ

…… 前回のおたよりでモンシロチョウを百匹分あげました。
それにしても敬語とか混ざってましたね。

えー、次のおたよりです。

題名：夢遊病に困ってます。

私はいつもいつも夢遊病のせいで虫じゃないものまで食べてしま
います。もう死んじゃうかもしれないのでどうかしてください。

名前：落とし穴

はいはい。それはどうにもできないのでみてみましょうか。

「おい！ ウツボカズ！ また夢遊病のせいで俺は寝られなかった
ぞ！」

「う、ごめん」

「おい！ ウツボカズ！ 俺の葉っぱくっただろー」

「あれはわざとじゃないって」

あらー。いじめですか。しかたないですよー

「俺の葉が変だってみんなに言われる始末なんだぞ！」

「ぐすん」

あらら、泣いちゃいました。かわいそうですね。

「じゃあどうにかしてよ」

「え？ 俺に？ うーん」

悩まないでください

「僕ね、困ってるからおたよりだしたんだ。そしたら無理だって。がんばって13歳までがんばれって」

「おー」

ちゃんとこの話はみているよー

「どんな風にいつていた？」

「それね……『ゴラア！ あんな変ないがかりつけおって！ なんでも感でもきくわけじゃねーぞ！ それとな、13歳超えたら夢遊病なおるぞ！』だって」

嘘つくんじゃありません！ ってかそんな喋り方さえしてないし素直に教えているじゃないですか！

「まじか」

「うん」

ええええええええええ！？

「僕ね、今思っただけど」

「何？」

「僕の誕生日なんだ」

「ふーん」

へー

「だから祝え」

「わかった。祝ってやるよ」

「祝えじゃなくてえ、祝えっていつてるんだよう」

「じゃあハッピーバースデートゥーユウー バカウツボカズラ」

「どさくさにまぎれていうんじゃない！」

バカはね……。確かにそうだけど

「ぷーん」

「わぁーい、ハエだーww ってなめてんのか」

「ご、ごめんね」

立場逆になったー！！

「だいたいな、僕の13歳の誕生日なんだからそれぐらい祝っても
らわなきゃ」

「13歳？」

「そう！」

ちよつとまってください。えつと

「13歳なら夢遊病治るんじゃないかな」

「え」

はぁ……自覚してください

プチッ

今回は意外と早くできましたね。

次回はどんなおたよりってこれが最終話！！？

でもこんな短すぎるやつはいやなので私の昔話を……。

「ねえ、父さん。これなに？」

「それはねえ、食虫植物だよ」

「しゅくちゅーしよくぶつ？」

「うん。虫を食べちゃうんだ」

「怖いよ。虫食べちゃうの？」

「そうだよ。たべて生きるの」

「ふーん」

私はそんなもの知らなかったですからね。

「じゃあ父さん、さき家かえってって！」

「おう」

「うつ。心臓病が……」

「植物が喋った!」

「しいー!」

なんとも不思議で、心細い感じがした。(教科書の言葉だね、これ)

「とにかく、ここにまたくるから!」

「えゝ。じゃあクモとってきてー」

「うんわかったー!」

そのあとえぐく食べる姿にぞっとしていたけどね……。

さて、これは最終おたよりでした。

たった三回で終わるとは作者はめんどくさがりなんですね。でわでわ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4622d/>

ヘンテコな食虫植物たち！

2010年10月8日15時14分発行